

【高速信号処理応用技術学会 2014年研究会の報告】

2014年9月1日(月)に高速信号処理応用技術学会研究会が高知県香美市の高知工科大学にて開催されましたのでご報告致します。今回は、台風12号の影響で本来8月7日(木)に講演発表会の開催が予定されていましたが延期となり皆様に多大なご迷惑とご心配をお掛けしました。しかしながら、幸いにも皆様の心温かいご配慮で当初予定された講演者の皆様におかれましては、1件も講演のキャンセルがなく執行部一同感極まるどころでした。また、時節は9月に入りましたが、当日酷暑にもかかわらず多数の方々にご出席をいただき、主催者一同、あらためて、厚くお礼申し上げます。発表件数は18件となり、その内容は<電力システム>、<画像処理>、<計測・制御>、<通信・医療・ロボット>などバラエティに富む多様な分野に渡っており、信号処理技術を基軸として分野横断的な科学技術の融合をめざす中身の濃い発表でした。また、名古屋工業大学 鶴飼裕之 学長とDSP技研 曾禰元隆先生よりそれぞれ基調講演を頂き、例年以上に内容の濃い発表講演会となりました。

さらに、本研究会の特色として、投稿原稿の頁数1~8頁と論文の性格に伴って頁数を選ぶことができ、発表時間も1~4頁では10分、15分とし、6頁以上では30分として研究内容を十分に議論できる時間を設けました。

今回の発表総数18件の内、6頁以上の発表が3件であり、今後本学会の論文への投稿を是非期待するところです。セッションおよび発表内容は下記の通りです。

- ・セッション1<電力システム> 発表件数:4件 内容:電力動揺に対する最適設計、配電システムのシミュレーション、無効電力制御など
- ・セッション2<画像処理> 発表件数:3件 内容:加工食品野画像処理による選別シミュレータの開発、画像認識方法など
- ・セッション3<計測・制御> 発表件数:5件 内容:KINECTアプリケーション、唇認識手法、抵抗分圧器の誤差解析、外乱抑制制御系設計など
- ・セッション4<通信・医療・ロボット> 発表件数:4件 内容:伝送システム、海中可視光通信、マニピュレータ遠隔操作など

なお、「基調講演1:コントロールとマネジメント」、「基調講演2: DSPへの軌跡 2014APU⇒砂そろばん」では統合的な制御の話題からDSPの昨今までをご講演頂きました。なお、今回の優秀発表賞には論文題目「手先の目標位置入力による移動マニピュレータの遠隔操作システム」著者:佐藤徳孝、岡部大輔、森田良文(名古屋工業大学)を発表者

された佐藤徳孝氏でした。おめでとうございます。本発表は6頁であり、今回の優秀発表賞を励みに、さらに研究を進展させ、是非、次回の講演会でご発表いただければと存じます。全発表終了の後、来年度の研究会(東京都市大学を予定)での再会を期して今年の研究会は無事終了致しました。その後、同会場で本学会の第16回総会が開催され、2013年度事業・決算報告、2014年度事業計画・予算案などが審議、承認されました。

総会終了後、同キャンパス内の教員ラウンジでの懇親会場に場所を移して懇親会が開催されました。研究会と共に懇親会は重要な情報交換の場であり、大学研究者、企業技術者および学生を含め、さまざまな話題に花が咲き、活発な意見交換が行われました。来年度は東京にて同様の時期に開催予定で、皆様の多数のご参加を期待しております。

さて、本学会は設立から早今年で17年を迎えます。発足当時と高速信号処理技術を取り巻く技術および社会情勢も大きく変化してきています。当初は、高速信号処理を実現するためのハードウェアやソフトウェアの構成なども重要な課題で高速処理技術の発展期でしたが、現在においては、画像認識、信号処理などのアプリケーション技術が中心になってきており、高速信号処理技術を如何にシステムに応用し、その技術を用いてシステムをどう構築或いは改善できるかが重要な課題になってきています。一方、本学会の正会員ならびに法人会員の会員数が徐々に減少傾向にあり、本学会の方向性が問われているように推察いたします。技術動向の変化が激しい中、会員の皆様の本学会へのご要望、また、ご意見を伺い、高速信号処理技術の新たな応用分野を視野に入れて本学会の進むべき方向性を明確にし、本学会を活性化することが使命と強く感じております。

今後、会員の皆様に魅力ある企画および情報を提供して、新たな会員を増やし、充実した学会活動を目指したいと存じます。以上にて、2014年研究会報告とさせていただきます。

副会長 竹田 史章(高知工科大学)



受賞した佐藤氏



左:佐藤氏 右:竹下会長